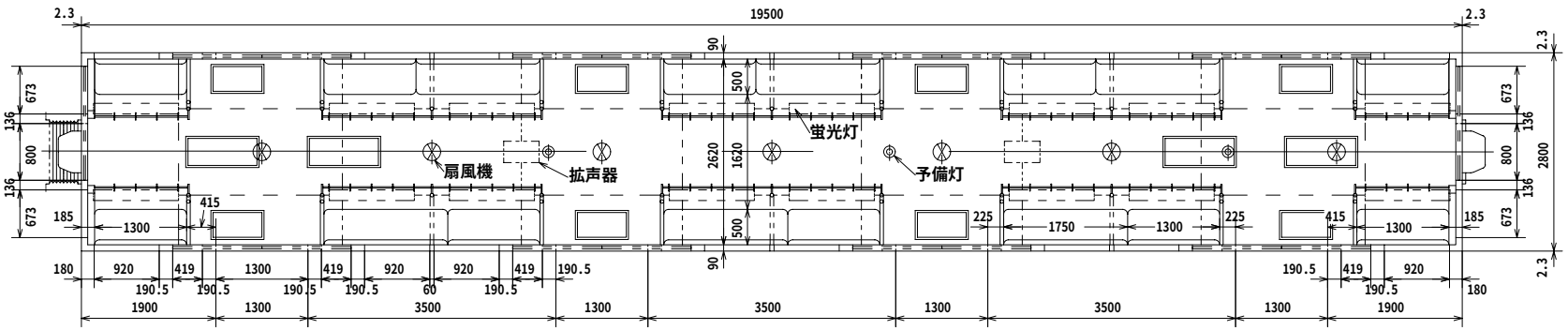
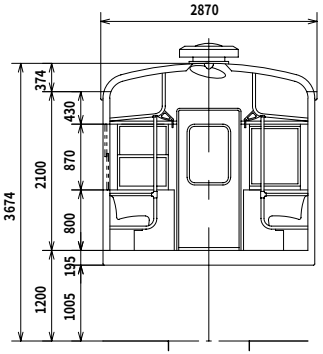
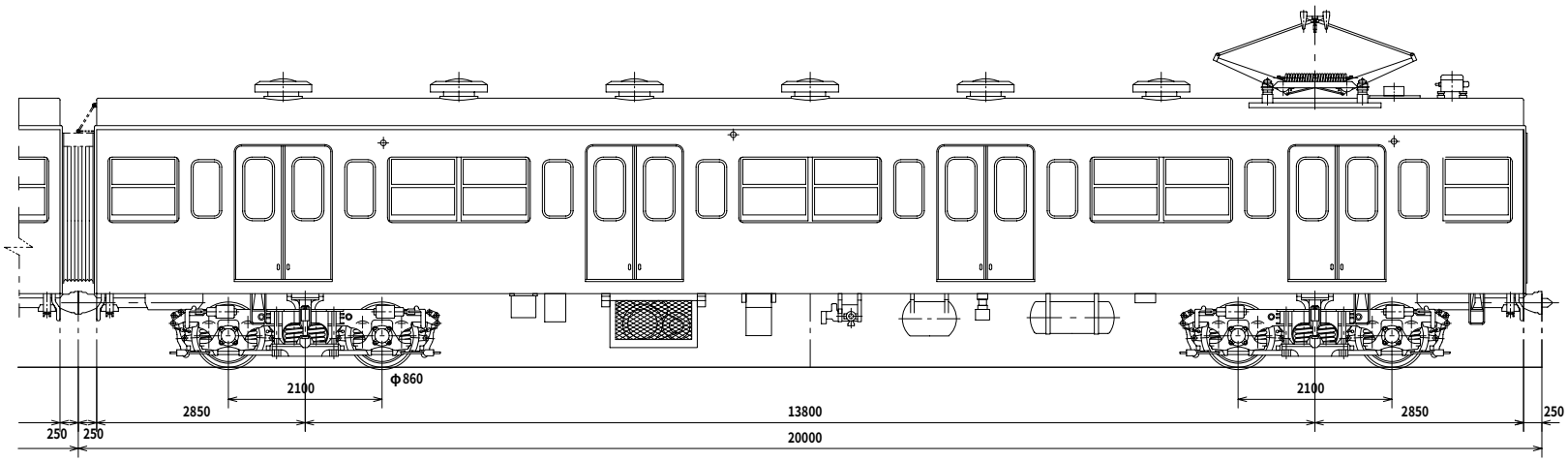
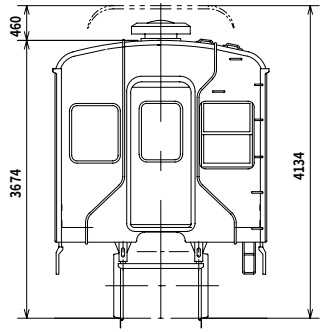
国鉄　モハ100型　形式図

1958年から量産された新型通勤用電車
前年の試作10両編成を基にして生まれた車輌で、なによりも従来の国電と
根本的に違う新しい設計が採用され、新性能電車と銘打って登場した
2種の電動車を固定連結して、それを一つの単位とする方式を始めとして、
台車(DT21)・主電動機・駆動装置・制御・制動など各方面にわたって新機
構が盛られており、車体関係こそ違え、特急用こだま型・急行用東海型と
同系列の車輌といえる

車体は72系920代と同タイプだが、両開きドアーの採用が特徴
図は初期量産型のクモハ101とモハ100で、このほか、
クモハ100、モハ101、そして予定変更もあってクハ100・101
・サハ100・101など多くの一族を擁する
最初はオレンジバーミリオンに塗られて中央線に投入、その後
使用線区により塗色をかえて入線
追って一部の方針を変更した103系が量産され、揃って近代通勤型
の主力として活躍